



赤谷プロジェクト地域協議会
 (公財)日本自然保護協会
 林野庁関東森林管理局

AKAYA
PROJECT
MINAKAMI

●赤谷の森のいま

赤谷プロジェクトエリアにおける ニホンジカの増加と今後の展望

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
 森林総合研究所 野生動物研究領域

主任研究員 飯島 勇人

●地域と繋がる赤谷プロジェクト

利根沼田学校組合立利根商業高等学校 教諭 中村 龍也

●地域社会と自然環境のためにできること

株式会社アイチコーポレーション
 生産技術部 新生産技術課 金子 奨平

(満開のニリンソウ 撮影:赤谷森林ふれあい推進センター)

AKAYANO MORIDAYORI

赤谷の森だより

2025.3.1

vol. **58**

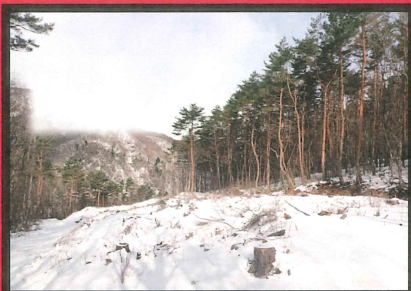
AKAYA no MORI

ミニ写真館

今回のテーマ

「冬の赤谷ツアー!!」

(写真:赤谷森林ふれあい推進センター)



第4次イヌワシ狩場試験地



南ヶ谷林道(複層伐試験地)



保土野林道



小出俣林道



いきもの村

赤谷の森の いま

赤谷プロジェクトエリアにおける ニホンジカの増加と今後の展望

2024年7月より哺乳類WGの委員を仰せつかりました、森林総研の飯島と申します。私はこれまで、ニホンジカの多さを推定する手法や捕獲技術、ニホンジカが増えることで森林などの生態系にどのような影響が生じるかについて研究してきました。これまでの知見を、赤谷プロジェクトにおいて役立てられればと思います。どうぞよろしくお願致します。

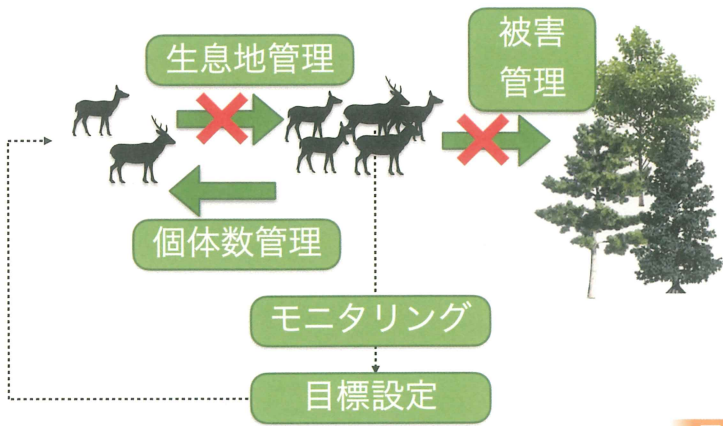


図1

さて、赤谷プロジェクトエリア内では、近年ニホンジカが増加しているとされています。ニホンジカは日本の在来種ですが、密度が高まると植物を減少させるなど様々な影響が生じることが、他地域での事例からわかっています。どの程度の影響まで許容するかは、それぞれの地域で決める必要があります。ニホンジカによる影響を低減するためにはニホンジカを減らす個体数管理、ニホンジカが増えやすい環境を減らす生息地管理、ニホンジカによる影響を防ぐ被害管理の3つの管理があります(図1)。そのため、ニホンジカの個体数を減らすことも影響の低減に貢献します。ニホンジカの個体数を管理することで、影響を許容可能な水準に制御できる可能性があります。では、ニホンジカの多さはどうやって知ることができるのでしょうか？

赤谷プロジェクトエリアには、自動撮影カメラが2011年から設置されており、ニホンジカの多さや、オスメスの比率の経年変化を知ることが可能です。私はこの自動撮影カメラのデータを用いて、2011年から現在に至るまで赤谷プロジェクトエリアのニホンジカが増加してきたのかを分析しました。その結果、撮影される個体に占めるメスの割合は年変動しながらも増加しており、2023年以降、5割に近づきつつあります。ニホンジカのメスはオスと比べると1か所に執着する傾向が強いこと、メスは子供を産むことから、メスが多くなるほどその場所での影響も大きくなると予想されます。さらに、2022年に得られた

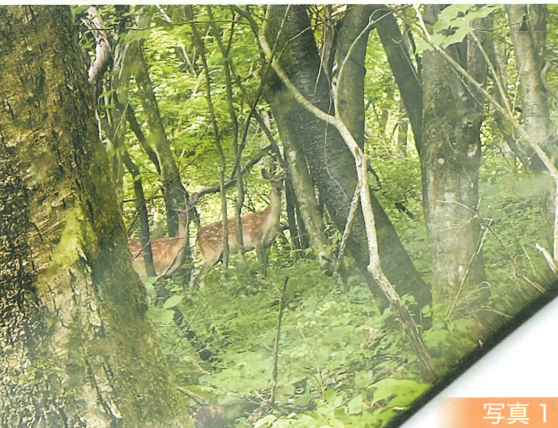


写真1

データからニホンジカ密度をRandom Encounterモデルというモデルで推定したところ、赤谷プロジェクトエリアのニホンジカ密度は10頭/km²に達している可能性が示唆されました。他地域ではニホンジカ密度が5頭/km²を超えると植生への影響が発生しており、赤谷プロジェクトエリアにおいても局所的に植生への影響が生じている可能性があります。

自動撮影カメラのデータからも予想されましたが、このように赤谷プロジェクトエリアでもニホンジカによる影響がすでに顕在化している場所が生じています。

ニホンジカの個体数管理を効率的に進めるためには、ニホンジカが出没する場所、時期、時間帯を明らかにする必要があります。多数の自動撮影カメラは、このような情報を提供してくれます。私は現在、自動撮影カメラデータのさらなる分析を進めており、いずれニホンジカの個体数管理に貢献できるような結果を提供したいと考えております。微力ながら、今後とも赤谷プロジェクトに協力できればと思いますので、どうぞよろしくお願致します。

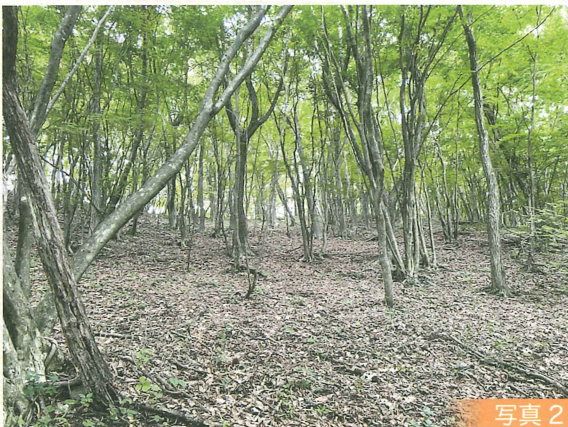


写真2



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 野生動物研究領域

主任研究員 **飯島 勇人**

いじま はやと

地域と繋がる

赤谷プロジェクト

利根沼田学校組合立利根商業高等学校
教諭



なかむら たつや
中村 龍也さん

自己紹介と普段取り組んでいること(仕事含む)を教えてください。

皆さん初めまして、今年度から利根沼田学校組合立利根商業高等学校の新任教員をさせていただきます中村龍也と申します。普段は生徒に商業科目の授業を教えています！

赤谷プロジェクト関係者と知り合った経緯を教えてください。

赤谷プロジェクトの方々とは授業を通じて知り合いました。

利根商業高校には地元の活性化を目指した授業として「みなかみ創生学」という授業があります。その授業の中で、赤谷プロジェクトを題材として取り上げていて、赤谷プロジェクトについて知りました。

今後、赤谷プロジェクト関係者で行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

赤谷プロジェクト関係者で行ってみたい計画としては2つあります。1つ目は、赤谷の森で間伐し、林内に放置された木材などの利用方法を



考え、利根商と赤谷プロジェクトの皆さんと連携し、商品開発を行うことです。具体的には、使用用途がなくなってしまった木材を活用した小物の作成など。2つ目は、赤谷プロジェクトで行われているイヌワシ、クマタカの保護活動に、もっと足を踏み入れて参加できたら良いなと考えています。

赤谷プロジェクトへ一言！(何でもOK!)

赤谷プロジェクトの方々にはいつも「みなかみ創生学」で大変お世話になっております。これからも赤谷プロジェクトの皆さんには「みなかみ創生学」の授業で講師として、生徒、教員含めお世話になると思います。その際はご指導よろしく願いいたします。これからの赤谷プロジェクトの発展を願っています！

地域社会と自然環境のために

できること

株式会社アイチコーポレーション
生産技術部 新治生産技術課

かねこ しょうへい
金子 奨平さん



みなかみ町に拠点を置く企業として、私たちは地域社会と自然環境に対し、どのような貢献ができるかを模索していました。

そのときに、「赤谷プロジェクト」に出会いました。

このプロジェクトでは、過密に生い茂った人工林を間伐して自然林に戻し、動物たちが暮らしやすい環境を整えるだけでなく、イヌワシが狩りをしやすい環境を作り出し、さらに間伐で生じた木材は「イヌワシ木材」と名付けられ、有効活用する取組をしているとのことでした。

その「イヌワシ木材」の活用事例であるイヌワシストアのカウンターは、木材としての美しさや質感だけではなく、人工林から自然林へ生まれ変わる過程や、生物多様性を守るという壮大なストーリーを感じさせるものでした。

そのストーリーに、私たちは深く心を打たれ、この感動を多くの人に伝えたいと思うようになりました。

そして、自社の商談エントランスに「イヌワシ木材」を使用したカウンターを設置し、自然環境と生物多様性をテーマにした展示を行うことにしました。

設置後、社内外から多くの反響をいただき、赤谷プロジェクトの理念が広がっていくことを実感しています。この取組を通じて、自然環境や生物多様性について、より多くの方に関心を持っていただければと願っています。

今後もこの活動にとどまらず、さまざまな形で地域に貢献できる方法を模索し、地域社会の一員としての責任を果たしていきたいと思っております。

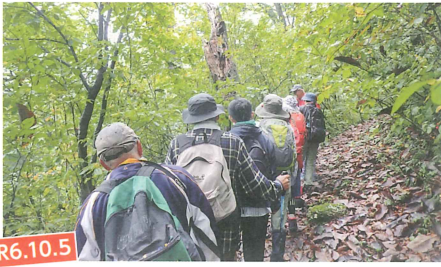




色々な活動をしているよ!

赤谷プロジェクトの活動

トピックス



R6.10.5

赤谷の森自然散策(秋)

少し涼しくなった旧三国街道を散策し、秋に咲く花やど
んぐりなどの様々な木の実を観察。



R6.10.10

群馬県立農林大学校 校外学習「森林環境論」
農林大学校の生徒といっしょに小出俣林道を歩き、プ
ロジェクトの取組を説明。



R6.10.24

新治小学校1年生の森林環境教育

いきもの村でどんぐり拾いを行い、赤谷の森の自然環
境を体感。



R6.10.31-11.1

自然環境モニタリング会議

各ワーキンググループの座長と現地を見ながらプロ
ジェクトの方針について協議。



R6.11.18

地域づくりワーキンググループ

地域の業者の方々やイヌワシの試験地から伐採された
木材の活用方法について検討。



R7.2.8

赤谷の森自然散策(冬)

いきもの村には昨年と比べて多くの雪が降り積もり、
子供たちといっしょにスノーシュー体験や雪像づくり
を実施。



令和7年度は、自然散策をより充実させるために一部登山ツアーに変更
しました。春の部では三国山山頂を目指し、夏の部では平標山に挑戦す
る予定です。コースの難易度によっては年齢制限等もございますので、
申し込みの際にはお気を付けください。詳細はイベントが近くなりまし
たらSNS、HP等でお知らせします。

※今後の状況や天候により内容を一部変更する場合がございます。

皆様のご参加お待ちしております!



三国山とキジムシロ

赤谷プロジェクト、って?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な
地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保
護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共
に活動するという、全国的にもめずらしい取組です。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県と
の県境に広がる約1万ha(10km四方)の国有林。
ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と
呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受
入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行わ
れる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査
や体験学習などを行っています。どなたでも参加
できますので、お気軽にお問い合わせください。

イベントのお知らせ

赤谷の森自然散策(春)

難易度: 中

- 日 令和7年5月24日(土)
- 時 9:00~16:00(予定)
- 場 三国山(群馬県利根郡みなかみ町)
- 料 無料
- 申 要申込
※4月下旬にHP・SNS等でお知らせします



赤谷森林ふれあい推進センター

検索

トピックスやイベントの詳細は
赤谷センターHPをチェック!



赤谷プロジェクト サポーター募集!

赤谷プロジェクトは、一緒に
活動に加わっていただける
サポーターを募集しています。



Let's enjoy in the AKAYA FOREST with us!

■お問合せ先
(公財)日本自然保護協会 ✉ akaya@nacsj.or.jp

follow me



赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-25-8777

※「森のおもちゃの家」内

理事 本多 結

メールアドレス y-honda@takuminosato.or.jp

(公財)日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4101

プロジェクト担当 森本 裕希子

メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 栗田 喜則

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html
メールアドレス ks_akaya_postmaster@maff.go.jp

この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。